

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。  
気候の乱れによる不作が深刻ですね。みなさまいかがお過ごしでしょうか。  
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動していきます。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、  
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。  
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、  
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

Ⅰ 第18回 GMO フリーゾーン運動全国交流集会 in くまもと参加報告

■ Ⅰ ■ 第18回 GMO フリーゾーン運動全国交流集会 in くまもと参加報告

「GMO フリーゾーン運動」とは、遺伝子操作作物・動物を栽培(養殖)しない、使用しない、消費しないという全国的な運動です。年に1度の全国交流集会が2月24日に熊本で開催されました。

基調講演は、鈴木宣弘さんと山田正彦さんによる「食とタネの危ない現状」と題した講演。鈴木さんから、穀物や化学肥料の多くを輸入に頼る日本は近い未来、飢餓に直面する可能性があり、防衛予算ではなくもっと食料備蓄に予算をまわすべきだという話がありました。農業問題は国民の命の問題です。日本の食糧自給率は38%ですが、飼料や種子を含めた実質自給率は9.2%。農業基本法の見直し案でも「食料自給率」や「穀物、種子の自給」という文言がなく、平時からしっかり生産者を守る仕組みを作る必要があります。戦後から一貫して米国の思惑やグローバル企業優先の政策が続いてきている中、いかにして日本の食と農を守るか、危機感の高まる話でした。

そして、カギを握るのは学校給食。地元の安全安心な農産物を給食で提供することで、有機農業の需要拡大や生産者を支えることにつながります。山田さんからは、発達障害と残留農薬の関係についてふれ、オーガニック給食へ向けて動きだしている地域があり、学校給食に有機食材を使うことで、農業にも明るい希望があるという話がありました。種子法廃止、種苗法改定という流れの中、自家採種の権利を守るためにも、各地で条例を作るための草の根的な活動がすぐに必要で

す。知ることと声をあげることどちらも必要であると感じる話でした。

その後、熊本県立菊池農業高等学校農業科の生徒からの報告、農家を交えてのパネルディスカッション、全国からの報告など盛りだくさんでした。その中から、海外からの報告を少しお伝えします。

◇台湾～台湾無基改推進連盟の郭華仁さん

台湾では法律により、学校内での GMO 食品の提供ができなくなったそうです。輸入大豆のうち 4%が Non-GMO で、主に食用に使われ、飼料用大豆は非常に少ないそうです。台湾の法律では GMO 原料を使った高度精製食品でも、GMO 表示が必要になりますが、「GMO 成分が含まれていない」と但し書きすることができます。台湾では、ゲノム編集作物を GMO にみなすかどうかはまだ決まっていません。台湾でも、Non-GMO 雑穀栽培の座談会や種子交換会を開催していました。

◇ヨーロッパ～テストバイオテック事務局長クリストフ・ゼンさん(ドイツ)

新ゲノム技術で作られた動植物は、健康や環境に対するリスクや安全性について結論を出す前に徹底的に調査される必要があるとおっしゃっていました。欧州と日本は互いに学ぶ合うことができ、新ゲノム技術の規制は、予防措置に基づき、健康と環境の保護を何より重視するものでなければならないとのお話でした。

◇韓国～GMO 反対全国行動常任執行委員長ムン・ジェヒョンさん

ゲノム編集規制緩和法案の反対運動として、GMO いらない約束宣言や、ボイコット集会などを行っています。韓国では未承認の GM ズッキーニが8年間流通されていました。アメリカから種が輸入され、政府から資金援助を受けて品種改良し、登録された GM ズッキーニが加工食品や学校給食などに使われたと推定され、政府に損害補償を求め、栽培した農民の被害補償を受けることができました。その後、種を輸入する際の検査を義務化する法案が国会に提出されました。また、GM ズッキーニが栽培された汚染地の調査が行われています。

---

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (田原本町西竹田 33-1)

---